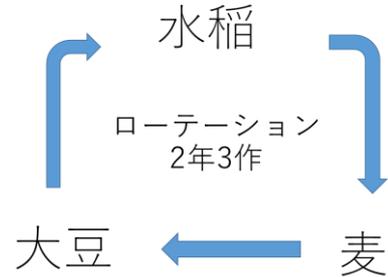
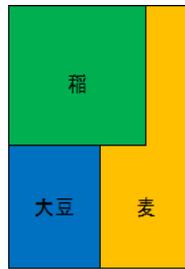


令和3年産大豆栽培資料

～高品質安定生産を目指して～

令和3(2021)年6月
塩谷南那須農業振興事務所

1. 団地化・ブロックローテーションにより湿害と連作障害を防ぎましょう。



団地化により作業効率を向上させ、水田からの浸透水による影響を最小限にしましょう。

連作障害を避けるためローテーションをしましょう。

2. 大豆は湿害に弱い作物ため、排水対策を徹底しましょう。

サブソイラーやプラソイラー等によるほ場づくりを徹底するとともに、「畦立て同時播種」の利用が省力的で効果的です。



図1 畦立て同時播種



図2 ドライブハロー
(培土板を装着)



図3 ロータリー
(溝切り板を装着)

3. 大豆は連作すると地力が低下するため、土づくりを積極的に行いましょう。

表1 土づくりの目安

1	土壌PHは6.0～6.5が最適。苦土炭カル等を施用して調整する。
2	麦稈すき込みの場合は、石灰窒素10～15kg/10a施用
3	牛糞堆肥1～2t/10a施用、発酵鶏糞の場合は、250kg/10a施用

表2 鶏糞施用試験の耕種概要 (R2年)

場所	那須烏山市
播種日	6月23日□
播種量	6kg/10a
施肥	大豆専用ひとふりくん 40kg/10a
土作り	鶏糞施用量：200kg/10a
鶏糞成分割合(%)	(N1.9:P4.3:K3.6)

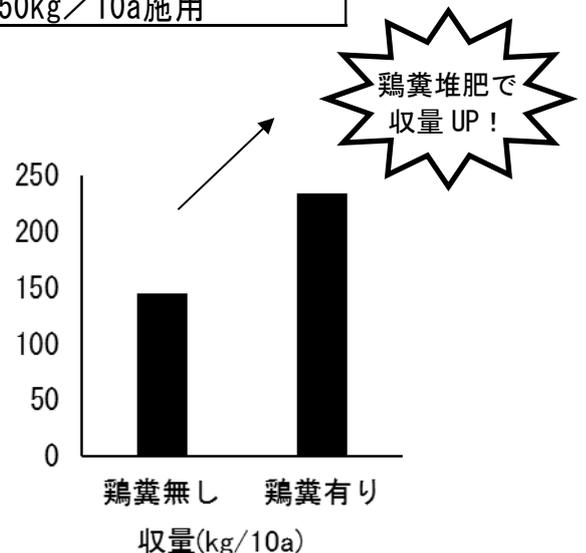


図4 鶏糞の施用効果

4. 適期播種で収量を確保しましょう。

播種適期：6月中旬～7月上旬(6/15～7/5頃)

播種量：4.5～6kg/10a (播種が遅れる場合は、1～2割程度量を増やす)

早播のリスク

- ！ 茎が伸びて倒伏しやすくなる
- ！ 葉が茂りすぎ病害虫の発生が多くなる
- ！ 枝・莢が多くなり成熟ムラが多くなる

遅播のリスク

- ！ 生育量が不足し減収する
- ！ 早霜で成熟に至らない場合もある

5. 農業環境指導センター発表の発生予察情報やほ場観察により適期防除を行いましょう<<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>>



QRコードも御利用ください →

表3 生育時期別の大豆病害虫

開花後日数	時期	生育ステージ	注意すべき病害虫
(開花10日前)	7月下旬	開花前	べと病
15日後	8月中旬	莢伸長期	紫斑病、べと病、カメムシ類、フタスジヒメハムシ、ハスモンヨトウ、サヤタマバエ等
25日後	8月下旬	子実肥大初期	紫斑病、べと病、カメムシ類、フタスジヒメハムシ、マメシクイガ、ハスモンヨトウ等
40日後	9月上旬	子実肥大中期	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、マメシクイガ、ハスモンヨトウ等
50日後	9月中旬	子実肥大後期	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、マメシクイガ

1) べと病・・・子実に感染すると、粒が小さくなり、収量・品質が低下します。

①散布時期：開花10日前～子実肥大期

(発生拡大の場合、開花40日後までに追加散布)

②主な薬剤：ベトファイター顆粒水和剤、フェスティバルC水和剤等

※べと病・紫斑病に登録のある「アミスター20フロアブル」については、薬剤耐性菌が発生しないよう、連用は避けましょう。



図5 べと病(葉の症状)



図6 べと病(子実の症状)

2) ハスモンヨトウ・・・葉のほか茎や莢も食害するので、収量が低下します。

①散布時期：1cm以下の若齢幼虫を中心に8月中旬頃から薬剤防除する。

②主な薬剤：トレボン乳剤、プレオフロアブル、プレバソンフロアブル5等



図7 若齢幼虫と食害

6. 最新技術を活用しましょう。

農林水産省では、スマートフォンなどで大豆栽培の問題点を改善できるシステムを作成しました。18項目のアンケートに回答することで、6項目のリスクを大まかに診断、リスクの高い項目について対策を解説してくれます。

大豆診断 楽々ナビゲーション



https://www.naro.affrc.go.jp/org/narc/crop_diagnosis/index.html



スマホで簡単!